とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	上目黒どろんこ保育園
施設所在地	東京都目黒区上目黒2丁目４８－２
法人名	社会福祉法人どろんこ会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

コンポスト

＜テーマの設定理由＞

今年度、畑仕事でただ水をあげるだけでなく、より良い野菜を作るにはどうしたらいいかを探求しているため。

２．活動スケジュール

８月「コンポストって何？」
保育者からの問い。コンポストについての説明やどのように作るか、何が必要か話し合う。
８～１２月コンポスト作り（日々のコンポストの管理、観察、週末サークルタイムでの振り返り）
３月コンポストを用いた畑づくり。
まずはこめ組主体で日々行い、興味を示したむぎ組やだいず組も一緒に行っていく。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
蓋つきバケツ２個
米ぬか
顕微鏡
RH測定器
土

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

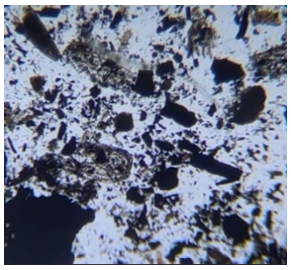
８月「コンポストって何？」
コンポストについて子どもに問いかけ、画像を見せて話し合う。
コンポスト作りに必要なものを抽出し、環境の準備を行う。
第２回 ９月「本格的なコンポスト作り」
バケツや土の準備が整いコンポスト作りを行う。
給食で出た果物の皮や、玉ねぎの皮むきで出た皮、人参の切れ端等を集め乾燥させた野菜くずを準備できたバケツの中に入れる「野菜くずチーム」、日々の散歩で拾った落ち葉を入れる「落ち葉チーム」に分かれ取り組む。
第3回　12月「コンポストにいる微生物を見てみよう」
最後完成したコンポストを顕微鏡で観察し、畑に混ぜる。
まず初めに顕微鏡の使い方についてを説明し、サンプルで入っていた玉ねぎの皮の表皮をはじめに導入する。
その後、2種類のコンポストを顕微鏡で観察する。
2種類、場所を分けて畑の土と混ぜる。
（コンポストの堆肥の栄養素が強いため、一角を堆肥を混ぜた土としその後全体的に混ぜる必要があるため。）

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

第一回
保育者の「コンポストって知ってる？」の問いかけに、「わからない」との発言。保育者がコンポストについての説明を行い、「毎日混ぜるの？」「コンポストは何になるの？」等疑問を子ども同士で話し合う。保育者が「もったいない」をキーワードに話を進めていくと「給食を残さないといけない？」「でもそれはもったいない」「食べないけど捨てたらもったいないものはなにかな？」など気づき考えを展開していく。
野菜や果物のヘタや皮、種は食べないけど栄養がある。野菜や果物以外でもコンポストはできるかなどの会話から、様々なコンポストを作ってみたいと意見がまとまる。一人で作りたい児や、チームで作りたい児で分かれたが、初めての経験から、みんなで意見を出し合い２つに絞り進めていくことを決めた。
第二回
給食で出た果物の皮や、玉ねぎの皮むきで出た皮、人参の切れ端等を集め乾燥させた野菜くずを準備できたバケツの中に入れる「野菜くずチーム」、日々の散歩で拾った落ち葉を入れる「落ち葉チーム」に分かれ取り組んだ。
最初は、目に見えない変化に「全然変わらないじゃん」と言いながら毎日混ぜることを楽しみにしている姿があった。１～２か月を過ぎたころ、野菜くずが小さくなっていることに気づき「野菜が小さくなってるよ！」と発見した喜びを職員や友達と共有している姿があった。また、コンポストの土の温度が高くなっているのを確認し、変化を感じた。
第三回
人の目ではみることのできないものをアップで見ることができる面白さや、玉ねぎの表皮がこんな柄をしている気づきを楽しむ姿があった。
次に落ち葉のコンポストの土を観察した。顕微鏡を覗き「何か動いているのがみえる」「丸いのが動いてる！」と目には見えない微生物の発見に驚いている姿がった。
次に野菜くずのコンポストの土の観察を行った。
落ち葉のコンポストとは変わり、ミミズのようにウネウネしている微生物を発見し「くねくね動いてる！こんな感じ」と体で表現してみる姿があった。
2つを比較し、変化を知り新しい発見を面白がる姿があった。「違うのも見てみたい」と意欲的な姿もあった。

2回目のコンポスト制作~チームで試行錯誤をしている姿

顕微鏡で観察しているときの様子



最後に畑の土に
混ぜている様子

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

最初は畑活動だけで、日課としてこなしていたが、「よりよい野菜を作るために」を考え、コンポストで意欲をさらに向上させることができた。
毎日の日課のように子供たちが意欲的に取り組むことができ、主体的に動いていてよかった。また、年長児が日々取り組むことで、年下児もコンポストへの意欲や「何してるの？」の疑問から、つながりができた。
毎日の食事で出る野菜くずがこういった形で堆肥になることを知り、いつも食べる野菜がより美味しくなる事を学んだ。もったいないを、食材を育てる栄養素に変えることができる学びに繋がった。
思ったよりもコンポスト作りの時間がかかってしまい、3月締めになったため、春先から始めると同じ年度で野菜を育てるまで進むことができたと感じた。